

た処、何れも典型的な硬直症状を起し斃死した。尚、菌型や毒力等、種々考慮しなければならない点もあるが、以上を今回の実験結果として報告し、一層正確なデータを今後の実験に期待したい。

#### 参 考 文 献

1、Zeissler Handbuch path. Mikroorg. Bd. IV.

- 2、佐々木 金沢医大十全会雑誌 36巻1040 (昭6)
- 3、井 上 満洲医学雑誌 22巻, 1011, 1029, 1125 (昭12)
- 4、今 川 医学研究 14巻 165pp. (昭15)
- 5、佐々木 金沢医大十全会雑誌 37巻 47, 487, 12, 3016 (昭7)

## 沖縄の腸管内寄生虫鉤虫保有者の血液像 並に尿検査について

1959年11月

琉球衛生研究所 城 間 盛 吉

#### 結 言

沖縄東風平小学校及び与儀小学校生徒の鉤虫保有者の血液像並に尿検査を実施したので報告する。

#### 検 査 方 法 (血液検査及び尿検査)

検査人員28名(♂10名 ♀18名) 年齢は7才~12才である。二重しゆう酸塩0.2gを小試験管に入れた乾燥後1ccの血液を混ぜその検体で白血球算定、赤血球算定並びに血色素測定、白血球分類等を実施した。尚、尿検査は肝臓機能検査にはウロビリノーゲン試薬で実施し、蛋白検査はズルフォサルチル酸法で行い、糖検査はベネチクト法で判定したが尿検査は何れも全保有者陰性であった。

#### 検 査 成 績

##### 1、赤血球所見

赤血球数について観察すると最も著しい減少例は175万、最高例は472万で300万代のものが最も多い。血色素について最低例は30%で最高例は90%であった。全体的には50~70%代が多く見られた。色素指数は最高指数1.2を示し最低指数0.5が1例あった。尚、赤血球ポリクローマジーを呈する例が11例あった。

##### 2、白血球所見

白血球数について観察すると最も著明な減少例は3,000で最高数は13,000を算定した。白血球分類上から観察するに淋巴细胞増多は10例、好中球増多が多く、特に好酸球の増多は100% (で其の成績を一表に記載する。

#### 結 語

鉤虫患者に於いては貧血が高度である。本症の最も重要な症状の一つである貧血の末梢血液所見は低色素性赤血球性貧血であり屢々有核赤血球、異常赤血球が現われる。一般に赤血球数が200万以下に達したものは注意する必要があると云われている。好酸球の増加は鉤虫症に

可成り特有なものであるが高度貧血患者では骨髓機能不全に陥るため却つて減少すると云われている。肝機能検査では病的反応はなかつた。蛋白検査及び糖検査も陰性であった。以上の事実から虫卵の嚴重な検索はもとより早期診察を特に心がける様要望する。

#### 参 考 文 献

- 塩田敏雄 岩川孝憲 片岡益一 千光士智  
高知県の腸管内寄生虫に関する調査 衛生検査  
VOL. 7 1958 No.4  
(衛生検査Vol.9 No.3 1960年7月15日発行に発表済み)

一 表

鉤虫保有者の血液像及び尿検査成績

調 査 個	調 査 所	氏 名	年 令	性 別	白 球 数	赤 球 数	Hb 色 素 指 数	白 血 球 分 類					尿 検 査			備 考	
								B	E	St	S	L	M	蛋 白	糖		ウ ロ ビ リ ン
東 風 平 小 学 校	金城 節子	8	♀	5,500	341,000	50	0.7	14	7	35	39	5	(-)	(-)	(+)		
	新垣 節子	9	♀	5,000	330,000	60	0.9	17	5	53	20	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)	
	"	古波倉でい子	7	♀	9,000	404,000	62	0.7	14	6	43	33	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	嘉数 秀雄	8	♂	5,000	366,000	52	0.7	20	4	49	25	2	(-)	(-)	(+)	
	"	知念 義貞	8	♂	5,000	472,000	56	0.5	5	4	34	54	3	(-)	(-)	(+)	
	"	知念 清光	8	♂	6,500	455,000	90	0.9	16	7	42	33	2	(-)	(-)	(+)	
	"	金城 静技	11	♀	4,000	205,000	35	0.8	5	4	23	65	3	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	宮城 節子	11	♀	5,500	307,000	50	0.8	12	10	55	22	1	(-)	(-)	(+)	
	"	新垣 政博	11	♂	7,500	226,000	56	1.2	9	7	61	20	3	(-)	(-)	(+)	
	"	謝花サエ子	12	♀	10,000	279,000	55	0.9 <sup>J</sup>	4	8	51	31	5	(-)	(-)	(+)	
	"	神谷 清松	12	♂	9,000	422,000	58	0.6	8	5	40	42	5	(-)	(-)	(+)	
	"	金城 秀雄	12	♂	8,000	388,000	70	0.9	8	8	46	36	2	(-)	(-)	(+)	
	"	仲座 清志	12	♂	3,000	175,000	30	0.8	12	10	46	29	3	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	金城賀代子	9	♀	12,000	420,000	60	0.7	6	7	46	39	2	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
	"	神谷 勝子	10	♀	13,000	372,000	60	0.8	6	7	64	20	3	(-)	(-)	(+)	
	"	嘉数ヨシエ	10	♀	5,000	354,000	70	0.9	11	4	38	44	3	(-)	(-)	(+)	
	"	野原エミ子	11	♀	7,000	391,000	62	0.7 <sup>B</sup>	5	8	34	50	2	(-)	(-)	(+)	
	"	当間 盛孝	11	♂	9,000	356,000	60	0.8	15	8	49	23	5	(-)	(-)	(+)	
	与 儀 小 学 校	新垣サダ子	11	♀	7,500	376,000	56	0.7	14	7	49	26	4	(-)	(-)	(+)	
		屋富祖春子	11	♀	7,000	266,000	52	0.9	24	6	59	10	1	(-)	(-)	(+)	
野原 繁		8	♂	5,500	392,000	76	0.9	5	6	52	34	3	(-)	(-)	(+)		
神田なみ子		7	♀	9,000	263,000	48	1.1	27	3	20	46	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)	
"		幸地 住子	8	♀	7,000	370,000	72	0.9 <sup>PI</sup>	7	6	46	36	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		新里立津子	10	♀	3,500	281,000	50	0.8	17	2	20	59	2	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		城間 春江	10	♀	4,000	361,000	50	0.6	8	4	37	49	2	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"		宇地原英子	10	♀	4,500	401,000	54	0.6	5	4	26	61	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)
"	山里 法子	11	♀	7,000	380,000	70	0.9	7	5	46	38	4	(-)	(-)	(+)		
"	神谷たかお	8	♂					PI <sub>1</sub>	10	5	41	39	4	(-)	(-)	(+)	ポリクロマジー (+)

## 第一部 殺蛆剤に就いて

琉球衛生研究所 平 識 善 保

殺蛆剤は昔より数多く市販されて居るが確実な殺蛆力を有するものは少い。其中、DDT や石油類等の混合剤がかなり良好な成績を得て居るが完全に死滅させることができないのは欠点である。処で今回の研究の結果下記の混合剤が最も効果的で又安価であり著明な殺蛆力が

得られたのでその混合方法及び使用方法並に殺蛆成績を記して参考に供す。

混合する試薬の割合：

ケロシン油100に対し  
コールタール 2-3 %